

審査員 講評



審査員長
池上 彰
ジャーナリスト

これまでの10回を振り返ると、ほほえましくこどもらしい手紙に心を動かされて、作品を選んでいました。しかし今回は、応募総数が増えたこともあるのか、文章力が格段にあがっており、結果として観察力、表現力が見事な作品を選ぶことができたという手ごたえがありました。反面、優れた作品の中から入賞作品を選ばなくてはならないという悩みもあるのですが、読んでいて思わず涙が溢れ出てきそうになる心うたれる作品も多かったですね。次回も素晴らしい手紙に出会えることを楽しみにしています。



審査員
小峰書店
代表取締役社長
小峰 広一郎

今回2回目の審査を務めさせていただきましたが、前回同様全ての作品からこどもたちが純粋な気持ちで精一杯生き、成長していると感じ取ることができました。日常生活の何気ない出来事からも、改めて感謝の気持ちを手紙に表すことで、いろいろな気づきを得ていることがわかります。そして、その気づきは明るく前向きな気持ちにつながり、家族や友人など周りの人に幸せの輪が広がっていくのだなと、「ありがとうの手紙コンテスト」の意義を改めて感じた次第です。これからも「ありがとう」から始まる、たくさんの素晴らしい作品が生まれてくることを楽しみにしています。



審査員
小説家、童話作家
日本ペンクラブ
「子どもの本」委員会メンバー
野中 柊

今回初めて、このコンテストの審査員を務めさせていただくことになり、こどもたちの手紙を読んで、その生き生きとした表現力に、私自身、作家として、とてもよい刺激を受けたように思っています。日々の事柄を見つめるまっすぐなまなざし、ユーモラスな想像力、大好きな人や物への素直な感謝の心、そして、伸びやかな文章に触れ、微笑ましく感じると同時に、気づかされたこと、学んだことが多々ありました。私も今、素敵な手紙を書いてくれたこどもたちに「ありがとう」の気持ちでいっぱいです。



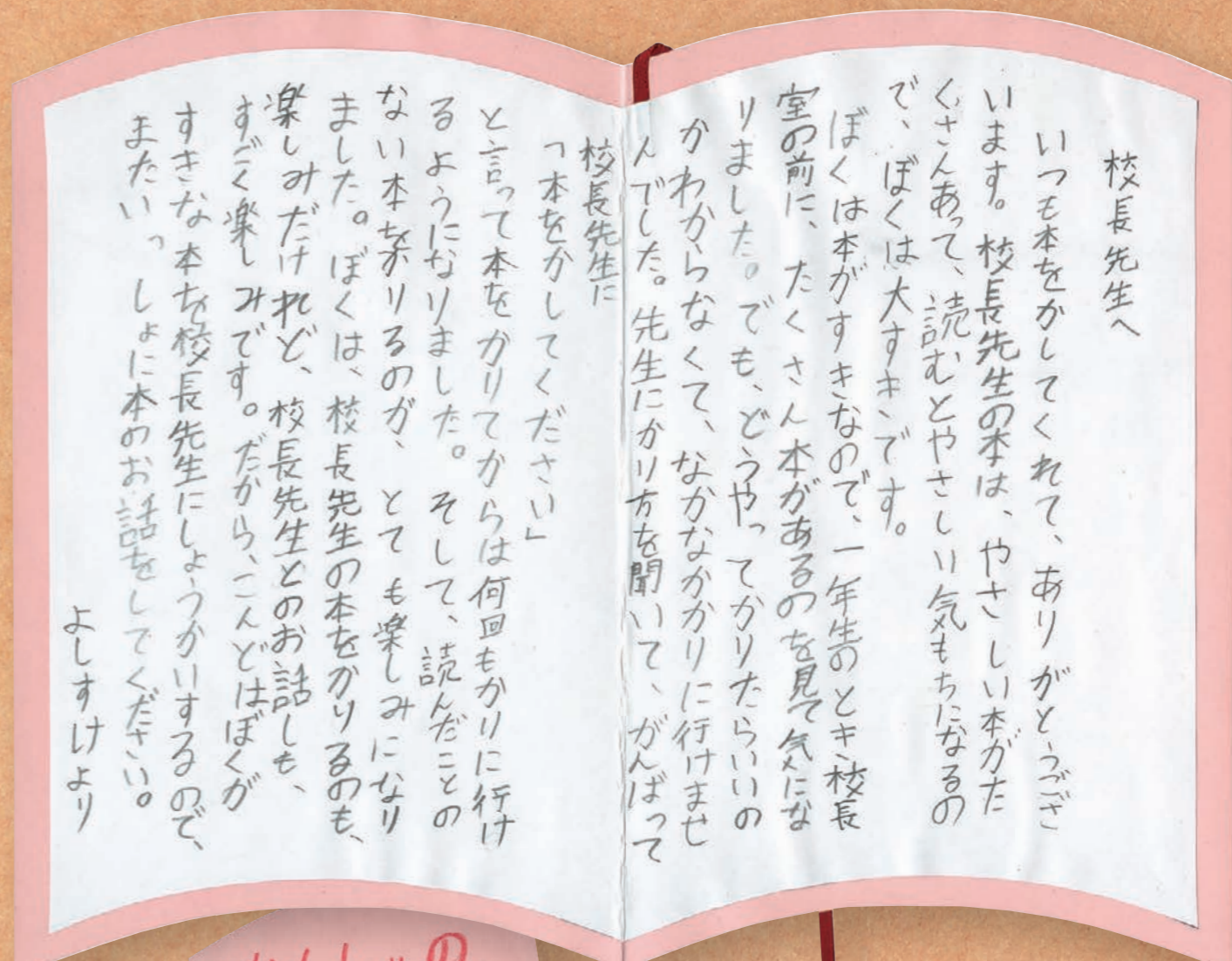
審査員
児童文学作家
日本児童文学者協会所属
廣嶋 玲子

私にとって、今回初めての最終審査会となりました。こどもたちの手紙には、素直な気持ち、家庭の事情、日々の暮らしぶりなどがあふれていて、まるでさまざまな映画を見ているかのようでした。感動したり、ふきだしたり、文章力や工作としてのセンスに驚いたり。とにかく新鮮で、「次はどんな子がどんな思いで書いたのだろう?」と、わくわくしながら読み進めていきました。優しさに満ちた内容もたくさんあり、「ああ、日本って、まだまだ捨てたもんじゃない」と思えたことも、大きな喜びでした。手紙を送ってくれたこどもたち、本当にありがとう!!!



審査員
株式会社ファミリーマート
取締役 専務執行役員
中出 邦弘

「ファミリーマートありがとうの手紙コンテスト」は、2019年度から文部科学省後援事業となりました。この場を借りて、10年の長きにわたりご協力いただきました先生方、保護者の皆様、そして審査員の先生方に御礼申し上げます。また、昨年を上回る40,130通の応募をいただいたことに関係者一同、心より感謝申し上げます。読ませていただいた作品の中には、自らが辛い思いをしながらもきちんと相手を思いやり、感謝の気持ちを伝えている手紙があり、このような豊かな感性を持つこどもたちにあたたかい手を差し伸べたい気持ちがわきあがった次第です。ファミリーマートでは昨年より「ファミマこども食堂」を各地で開催しています。地域のこどもたちのコミュニケーションの機会を設け、本コンテストとともに広げ、こどもたちが素直に「ありがとう」と言える環境をつくるお手伝いを社会的使命をもって取り組んで参りたいと考えております。次年度もよろしくお願いたします。



北海道・東北ブロック
最優秀作品賞 低学年の部
こせき よしすけ
小関 義恭さん(2年)
白石市立白石第一小学校

審査員から * 校長先生のおかげで読書の楽しさを知ることができた感謝を綴る手紙。勇気を出して声をかけたエピソードを交え心の動きをこまやかに表現している。